

相模原市公共交通整備促進協議会(以下「協議会」という。)は相模原市、市議会、自治会連合会、市内各種団体により構成され、昭和44年の設立以来、相模原市域の鉄道、バス交通等、公共交通の整備促進に向けた活動を行っています。

公共交通の利用状況

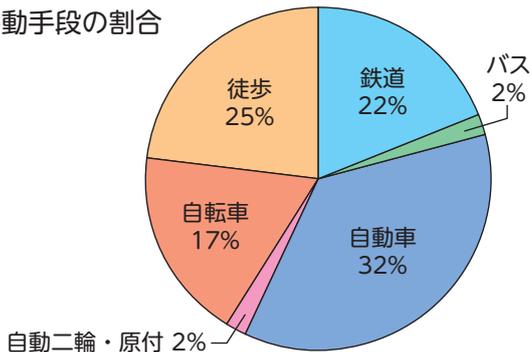
市内における鉄道、バスなどの公共交通の利用者は年々増えておりますが、移動手段の割合を比較すると、自動車の利用者が最も多い状況です。

人口減少や少子高齢化が進行する中、交通弱者や来訪者などの移動手段を確保するため、公共交通の重要性はますます高まっています。

市内の鉄道、バスの利用者数の推移(1日平均利用者数)

年度	駅乗降者数	バス利用者数
平成20年度	658,254人	77,945人
平成25年度	676,643人	82,213人
平成30年度	691,110人	88,104人

本市における移動手段の割合



(平成30年度東京都市圏パーソントリップ調査より)

公共交通のメリット

安全で安心

バスの事故件数は、バスを除く自動車の約300分の1であることから、安全性が高い交通手段と言えます。(警察庁交通局「平成30年中の交通事故の発生状況」より試算)



環境にやさしい

1人を1km運ぶのに排出されるCO₂は、電車は自家用乗用車の約7分の1、バスは自家用乗用車の約2分の1のため、環境にやさしい交通手段と言えます。(国土交通省「運輸部門における二酸化炭素排出量」より試算)



健康の増進

1時間自動車移動の代わりに鉄道・バス・徒歩を使えば、消費カロリーが約1.5倍になるという研究結果があります。(日本体育協会スポーツ科学委員会「日常生活動作によるエネルギー消費量」より試算) ※鉄道・バスで40分、徒歩で20分として算出



渋滞の緩和

鉄道やバスへの利用転換が図られることにより、自動車利用者が減少し、駅周辺などの交通渋滞が緩和されます。



第6回東京都市圏パーソントリップ調査の集計結果を公表しました

- 平成30年9月から11月にかけて、「人の動き」を調べる10年に一度の大規模な調査である、「第6回東京都市圏パーソントリップ調査」を本市が参画する東京都市圏交通計画協議会で実施し、その集計結果を令和元年11月に公表しました。
- 今回の集計結果によると、昭和43年の調査開始以来、初めて総移動回数(総トリップ数)が減少に転じたこと(図1)や、外出率と1人1日当たりのトリップ数が最低(図2)となったことがわかりました。

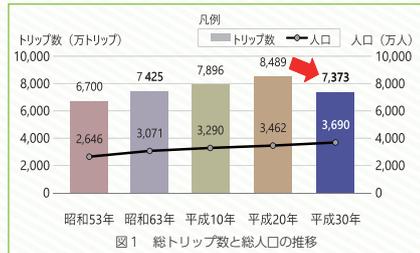


図1 総トリップ数と総人口の推移

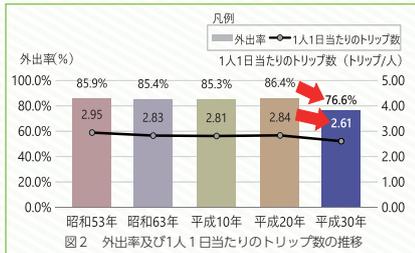
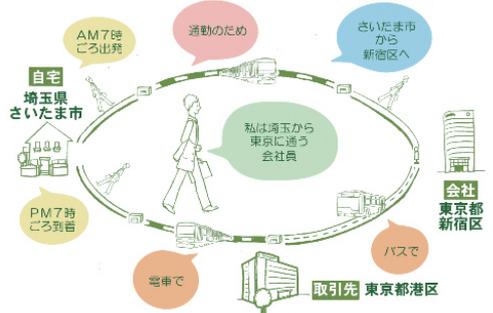


図2 外出率及び1人1日当たりのトリップ数の推移

パーソントリップ調査とは

人(パーソンの)1日のすべての移動(トリップ)を把握する調査であり、「どのような人が」「どのような目的で」「どこからどこへ」「どのような交通手段で」移動したかなどを調べるものです。



東京都市圏交通計画協議会HPより引用

調査範囲

東京都市圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県南部)

これらの集計結果は、相模原市など東京都市圏の交通に関する施策の検討等に活用されることとなります。

パーソントリップ調査の詳細は「東京都市圏交通計画協議会」HPを→ご参照ください。



<https://www.tokyo-pb.jp/>

JR相模線の全線複線化の早期実現を目指し、 新たなキャッチフレーズの募集が行われました

- 相模線複線化等促進期成同盟会（以下「同盟会」という。）において、これまで「ブルーラインに夢のせて」のキャッチフレーズで活動してきましたが、平成から令和へ元号が変わったこの機会を捉え、令和元年10月15日から12月15日にかけて新たなキャッチフレーズの募集を実施しました。
- 全国から901名2,114作品の応募がありました。
- 新しいキャッチフレーズは令和2年7月頃発表予定です。
- また、同盟会のTwitter（ツイッター）を開設し、同盟会の活動などを発信しています。



募集時のチラシ



【@Go_Go_sagamisen】

ブルーラインに夢のせて～相模線複線化の早期実現を！～
相模線複線化等促進期成同盟会
(相模原市、神奈川県、沿線市町、経済団体)

ハンドルがない自律走行バスの実証実験が 「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」で 実施されました

- 相模湖リゾートと富士急行は、SBドライブと連携し、ハンドルがない自律走行バス「NAVYA ARMA」の実証実験を、「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」で、令和元年11月25日から12月1日まで実施しました。（神奈川県最先端ロボットプロジェクト）



NAVYA ARMA (ナビヤ アルマ)

協議会では、公共交通の利便性の向上に向けて、各交通事業者へ要望活動を行っています

主な要望内容

- 東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社
横浜線の輸送力増強、相模線の複線化 等
- 東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社
中央本線の輸送力増強、特急電車の停止 等
- 小田急電鉄株式会社
小田急線の輸送力増強、多摩線の市内への延伸 等
- 京王電鉄株式会社
京王相模原線の輸送力増強、駅施設の設備 等
- 神奈川中央交通株式会社
輸送計画の改善、災害発生時の対応 等
- 県タクシー協会相模支部相模原地区会
利用者サービスの向上、バリアフリー施策の促進 等



小田急電鉄への要望活動の様子
【左側：本村会長 右側：星野取締役社長】

《これまでの要望活動の主な成果》

- ・ノンステップバスの導入
平成10年度に補助制度を開始して以来、240台のうち101台（平成31年4月1日現在）のノンステップバスが導入されました。（市内バス営業所に限る）
- ・ユニバーサルデザインタクシーの導入
令和元年度から2年度までの補助を実施。
令和元年度は14台の補助を予定しています。



▲ノンステップバス
出入口の段差を無くして乗降性を高めた低床バス

ユニバーサルデザインタクシー▶
誰もが利用しやすい新たなタクシー車両

都市交通施設整備基金にご協力を

本市では、都市交通施設の整備にかかる費用の一部にするため、平成20年度から基金の積立を行っており、市民の皆様や企業などからの寄附を受け付けております。詳しくは事務局までお問い合わせください。

